



(復刊 25 号)

年頭所感

会長 龍 知 恵 子

皆様、御機嫌よく新年をお迎え遊ばしたことを存じます。

東京は久しぶりに三ヶ日を通じて、日本晴れのおだやかなよい日がつづきまして、何となく、今年は明るいよい年であるように思われました。皆様と御いっしょに、元気で一九六六年を進んでいきたいと存じます。

◇ 今年の総会 ◇

昨年の仙台での総会で、次期総会は名古屋での御希望が、最多数でございしましたが、地元の愛知、岐阜、三重、の三県の役員の方々の御尽力により、五月十四日に名古屋で本年度の総会が開催されることになりました。翌十五日は、伊勢、岐阜の観光が、予定されて居ります。三県の会員の方々が、こぞって総会のために、お骨折り頂いておられるとのこと、全国の会員の皆様も、一人でも多く出席下さいますようお願いいたします。

◇ 国際女医会総会 ◇

総会が終了すると間もなく、ニューヨークローチェスターで開かれる国際女医会の総会へ、代表三十五人の方々を送る予定です。

アメリカへは空路も近く、何となく近親感が持たれますので、一名でも多くの方に、出席していただきたいと思えます。そのために特にこの度は申込みのメ切りを延期いたしました。御希望の方は、ただちに本部へお申込み下さい。

◇ 新会員の獲得 ◇

常に頭から去らず、特に年頭に際して考えますことは、国内に一人の女医がおられるので、せめてその半数の五千人の会員を得たいと思うことです。本年は本部でも入念に企画しておりますので、支部長各位も、ぜひ御協力下さいまして、各支部の地域内に居られる未加入の女医先生方に、呼びかけていただき度いと存じます。

日本女医会も、ただいままでも親睦のみの団体ではなく、われわれ女医にふさわしい事業をいたす時もまいります。そのためにも、確りした多数の会員を、確保しておかねばならぬと思ひます。

◇ 日本女医会の事業 ◇

皆様の責任者としての私が、日本女医会の事業というものを考えます時、まずその事業の選択に苦しみます。甲のグループによれば、乙のグループにふさわしくない、乙によれば丙にわたると。それにも増して困難なのは、その事業を完成するまでの会員の皆様の団結を確保することです。予測できる困難は計画のうちです。苦しみとは思いませんが、一つの事業を成し遂げるには、予測しない苦難を伴います。

それを乗り越えるには、何としても確りした団結が必要です。吾々は女医なのです。団結すれば、どんなことでも出来ます。女医であるが故やれる。母の経験があるからやれる。いかなる困難辛苦にも耐えることが、日本女性の特質なのだからやれる。

日本女医会の事業、それは、あくまでも「これをやろう」という多くの会員の方々の情熱からスタートしたいと思ひます。吾々の日本女医会は、世の中をリードし得る、また為す可き団体なので

す。

日本を、完成された文化国家としてはずかしくないものにするため、その目的に一步でも近づいたための事業も、よいではないでしょうか。

その日まで、再び皆様をお願いいたします。一人でも多くの会員を集め資金を確保したいと念願いたします。ぜひ御協力下さいませ。

◇ 健康保険の一本化 ◇

厚生大臣が幾度かわられても、医師の、殊に開業医の立場は決して上向きにはなりません。

健康保険の一本化のために、私共は熱心に考えなければなりません。男性の方々がやって下さるだろうと安心して又は誰かがやるだろうと考えて、ジツト殻に閉じこもっていてもよろしいでしょうか。

正しい健康保険行政は、健康保険が一本化されてはじめて行われるのだと思ひます。

次の時代のためにも、少し医師としての身辺をかえりみようではあります。

せんか。(一九六六年一月)

国際女医会総会 参加申込再募集!!

期日：昭和四十一年七月九日―十五日
場所：ニューヨーク州ローチェスター市
人員：定員 三十五名(現在三十一名)
費用 (総会、観光旅行総費用左の通り)

◇ アメリカまわり
期間：七月五日―七月二十八日
(所要日数二十四日間)
費用：七十三万円

◇ 南米まわり
期日：七月五日―八月八日
(所要日数三十五日間)
費用：百十八万八千円
メ切：二月二十八日

以上御希望の場合旅行日程表を送ります故本部まで御連絡願います。

第十一回 日本女医会総会

観光旅行

日本女医会総会が左記の通り開催されます。

期日 昭和四十一年五月十四日
場所 愛知県産業貿易会館
愛知県・三重県・岐阜県三支部の御厚上、A B C D のいづれかを○でかこみます。

意で総会後の観光旅行が計画されました。恒例のことながら五月は旅行シーズンですので、旅行に御参加になられる方は同封の私製「ハガキ」を御利用の上、A B C D のいづれかを○でかこみます。

三月十日まで御返事をお願いいたします。

日程

五月十四日(土)午後一時—三時半(総会)開会、於愛知県産業貿易会館

午後四時—六時名古屋市内観光

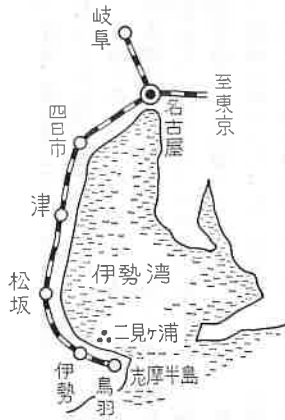
午後六時—八時、懇親会並宿泊

懇親会場所 名古屋国際ホテル

五月十五日あさ八時名古屋出発岐阜コース、鳥羽コース二班にわかれ観光する。

○岐阜コース 午前八時電車にて岐阜へ↓岐阜市内観光 夜鶴飼見物

五月十六日朝解散



○岐阜コース 午前八時電車にて岐阜へ↓岐阜市内観光 夜鶴飼見物

五月十六日朝解散

○鳥羽コース 午前八時名古屋出発

伊勢神宮参拝↓志摩スカイライン↓朝熊山々頂レストハウス昼食

鳥羽港↓船でパールアイランド見学

↓二見浦↓松阪↓名古屋駅前着

A 五月十四日名古屋総会 市内観光、懇親会に参加して解散する。

B 懇親会後一泊して五月十五日あさ解散する。

C 名古屋懇親会後一泊五月十五日あさ岐阜コースへ参加、鶴飼を見物して五月十六日朝解散する。

D 名古屋懇親会後一泊し五月十五日あさ鳥羽コースに参加し、当日夜名古屋で解散する。

費用 A 二千五百円 B 五千円 C 一万円 D 八千円

※所要費用は総会、懇親会費用 観光電車バス代、宿泊料のみ名古屋までの往復旅費は含まれておりません。

脳性麻痺の成因と予防

宮坂登志子



(1) 脳性麻痺の成因

脳性麻痺についての Courville の病理学的研究によれば、その剖検例の半数以上が anoxic な変化を示唆する

障害、二〇%が核黄疸、三〇%が脳発達異常の結果おこったものであると報告している。表1に東京小児療育病院に入院した一、二、三名の脳性麻痺患児(産直型三、四、アテトーゼ型八五、その他四)について、その母の分娩状態と子の新生児状態とを母からの問診によって調査した結果を示した。表1に示すごとく母の分娩状態としては、早期破水、早産、陣痛微弱が多く、子の新生児状態としては仮死、重症黄疸、未熟児の順に多い。しかしこれらの状態は病型と一定の関係が認められ、産直型が多い場合は仮死が多く、アテトーゼ型が多いときは黄疸が多い。また分娩状態と新生児状態に全く異常が認められないと推定される場合が各々約二〇%に認められた。

表1. 脳性まひ児の母の分娩状態と児の新生児状態

Table with 10 columns: 児の状態 (分娩の状態), 仮死, 仮+黄疽, 未+黄疽, 未+仮, 未熟児, 未+黄疽, 黄疽, その他, 計. Rows include categories like 早期破水, 予定日超過発, 早産, 妊娠中毒, 陣痛微弱, その他の患, 正常分娩, and a total row.

Allen and Diamond は米国では全体の二〇%が不適合妊娠で、不適合妊娠の五% (全体の1%) が溶血性疾患の症状を来すとされている。有馬らは本邦における ABO 不適合妊娠の期待頻度に脳性麻痺の母子の血液型を比較すると、期待頻度二六・一% に対し実測頻度は四二・九% であり、実測頻度の増加は主として母親が O 型の場合の不適合頻度が大きであることに由来すると報告している。また古畑氏は ABO 不適合妊娠三八一例を検査した結果抗 A 免疫抗体一三例と抗 B 免疫抗体六例とを認めてい

よる溶血性黄疸が成因であり、未熟児では肝の Glucuronyl-Transferase 活性の未熟さ、その他血液型不適合以外の因子が成因となると考えられている。また脳性麻痺の成因の一つとして胎生期における脳の形成異常(大脳皮質、白質の不均衡発達、側脳室の高度拡大等)がある。さらに同胞中の患者発生、近親結婚者から生れる頻度等から考えて脳性麻痺の成因として遺伝を

(2) 脳性麻痺の予防

以上脳性麻痺の病理解剖および臨床所見より推定される成因について簡単にのべたが、さらに発生機序を動物実験によって解明することにより、脳性麻痺の治療法および予防法が確立されるものと思われる。したがって多くは大変困難な問題であるが幸い近時血液不適合の問題については、実験的に解明されつつある (Rh 因子、非定型抗体については省略する)。

表 2. 脳性麻痺児の母と子の ABO 式血液型の組合せ

	組合せ		数 %		数 %	
	母	児	黄疸なし		黄疸有り	
適合妊娠	O A B AB	O A B	8	1.86	2	4.7
		O A B	13	30.3	9	20.9
		A B	5	11.6	2	4.7
			1	2.3	1	2.3
			27	62.8	14	32.6
異型妊娠	A B AB AB	O O A B	2	4.7	1	2.3
		O O A B	3	7.0	5	11.6
		O O A B	1	2.3	1	2.3
			5	11.7	7	16.2
不適合妊娠	O O O A A B B	A B	5	11.6	8	18.6
		A B	1	2.3	8	18.6
		A B	1	2.3	2	4.7
		A B	3	7.0	1	2.3
		A B	1	2.3	2	4.7
			11	25.5	22	51.2
			43		43	

る。この場合一九例が溶血性疾患をおこしてくる可能性が推定されるわけである。したがって年間の出生数を二万人とすると約三万人は ABO 不適合妊娠であり、この内一五〇〇人の子供が血球の崩壊による血中間接ビリルビン遊離型増量のための中枢神経系の黄疽着染(核黄疽)による脳性麻痺児となる可能性があるわけである。

新生児の重症黄疽は黄疽が増強するにしたがって不安、嗜眠、哺乳力減弱、頭部後屈、落陽現象などの脳症状が出現し、病型はアテトーゼ型、四肢麻痺の極めて重い脳性麻痺が出来る。しかし適当な時期に交換輸血がおこなわれるときには、健康の子供にするこゝとが出来るわけである。

表2に東京小児療育病院に入院した脳性麻痺児の母子の血液型の組合せを示した。表2に示すごとく重症黄疽を経過した脳性麻痺児は、同型妊娠で各々全体の三二・六%、一六・二%である。

この対し不適合妊娠では五一・二% (日本人の期待頻度二六・一%) を示しており、重症黄疽を経過しない脳性麻痺児の不適合妊娠の実例頻度は二五・五%で期待頻度に近い。また不適合妊娠中特に O(母)A(子)、O(母)B(子)の組合せに脳性麻痺児が多い。

核黄疽からの脳性麻痺の発現をふせぐことが出来れば、脳性麻痺児の発生の約二五%は少くすることが出来るわけである。そこで妊婦の血液型検査を行うとか、不適合妊娠であれば抗体価の追跡、臍帯血又は静脈血よりの Hb 値、ビリルビン値の測定、新生児の症状、等に関心をおもわなければならない。また新生児をビタミン K₁ ズルブオンアミッド、抗生物質投与のための重症黄疽発現にも十分の関心をはらわれ、ぜひ日本女医学会の諸先生方のお力により今後の脳性麻痺児の発生を防止していただき度いとねがっている。

国際女医学会々長
デルムンド女史を迎えて
渉外部 臼井 潔 子



於 兩國酒家 (中央デルムンド女史)

かこんで交々入りみだれ、小野先生の名司会の下に各国の方々のそれぞれ興味あるおはなしを伺い乍ら、たのしいお食事でございました。たとえアメリカの方は、一九二四年に始めて来朝された時には自動車はまことに少く自転車の多かった事、日本は医学は勿論あらゆる分野でのすさまじい発展に驚かされた事。デンマークの方は日本で始めて個人の家庭にお招きうけて大変おもしろい日本のお茶の接待をうけたがホテルにはないので残念な事、及び白パンばかり食べさせられて迷惑な事。次に韓国の方が二十年ぶりに話す日本

十一月十二日の夕べ、折から国際小児科学会に御出席中の国際女医学会長ムンド先生をはじめ、各国の代表の方々十八名を原宿南国酒家にお招きいたしました。

先づ龍会長の心からなる歓迎の辞に始まり、次いでムンド先生が美しいお国ぶりの服装で、謝辞と、来年のロチエスターに於ける総会には、なるべく沢山の方々の御参加を得て、国際女医学会をますます発展させてゆきたいとの御挨拶がございました。やがて円卓を

語で、とてもうまく話せませんがと仰言われましたがまことに流暢な日本語でした。我々ほもっとも緊張に連絡して親善に積極的でありたいと話された時には感激家の私など涙をもよおしました。

その他オーストリア、フィレンツェ、スイスの方々が次々と立たれ会をかさねる毎に更に一層の親近感をもてるというような事を仰言られました。最後に三神常任理事が今夜はまことに有意義な居ながらにしての国際会議でした。又どうぞおいで下さいと結ばれました。

たのしい欲談と暖かいお料理に本當に和やかな心あたたまる会でございます。又いつも乍ら明快な通訳を下さる、佐野、山崎、中村、小野諸先生に厚く御礼申し上げたいと存じます。

日本心臓血圧研究所見学記

愛知県支部 佐藤 千代子

昭和四十年七月十八日、前夜支部長森川みどり先生の御案内で、赤坂プリンスホテルに一泊した私共日本女医学会愛知県支部有志九名は、早朝雨上りの宏大な庭園を散策、日頃の緊張から解放され爽快な朝の一刻を迎えました。朝食後、早速車に分乗、市谷河田町の東京女子医大へと向いました。懐しい建物の中にいきわ堂々と日本心臓血圧研究所があり、玄関には既に今日の御案内を御願ひした服部講師が迎えていて下さいました。服部講師は研究所建設に当り、立案設計に四年間、凡ゆる角度からプランを練られた責任者で全館を細部迄二時間余に亘って御説明載き唯々感謝致しました。建物は道路

に面した前半分が二階建、後半分が六階建となっており、中庭をはさんで側面から見ると両者がL字型になっており、この配置は内部の連絡を密にすると共に、心臓病診断上不可欠な心音聴診に外界からの雑音を防ぐ目的を主に設計され、患者の安静を保つ為入院室も殆ど全部が後方六階建にあります。自動ドアの玄関を入り、ゆったりとした広さのロビーの様な待合室に立つと、左横手には壁面にガラスモザイクで飾られた受付、会計、薬局窓口が整然と並び、正面中庭は四季緑の庭を中心に周囲四角の池を金魚の群が游泳、心む風景で、この庭は後部六階建棟よりも眺められ、入院患者の目を楽しませていました。

患者は受付をすまると、二つの予診室、九つの診察室に夫々分れて入り診察を受けて次の検査部門に行く事になります。今迄、患者にとって一番困る事は待合時間の長い事でしたが、これを解決して患者の苦痛を軽減し、診察の流れをスムーズに運ぶ種々の思いやりが、全館各所に工夫されています。診察室(各検査室も同じでしたが)は思いの外に狭い感じですが、これは最大の設備機能を最も有効に使用し得るべく計算された最小限度のスペースとの事、尚各室毎に患者の脱着衣ボック스가二つづつあり、これは私共の診察室にも欲しいと思つた事でした。診察室は、バス道路に面していますが、先づ防音を主に設計されただけあって、グレーペンガラス、二重ガラス等の使用で全然雑音が無く、床も吸音性の高い床材で且滑る不安が全く無く、凡ゆる戸の開閉の音、錠の音にも防音が考へてあるとの事でした。

次の外来検査部門も一区劃にまとめられ、検査受付を通して必要な検査室を一巡する事になります。ここでも待合時間を少くする配慮がされ、心電図室3室、ベクトル心電図室1室、心音図室用完全無音室1室、無線誘導心電図室1室(ここには無線誘導の心電機械があり、患者はトランジスターを身につけると、どこにいても自然に心電図が分る様になっている)レントゲン撮影室1室、レントゲンテレビによる透視室1室、眼底検査室1室、呼吸機能検査室1室、血液尿検査室各1室の各室が整然と並んでいました。レントゲン写真も自動現像機に入れると十分後には現像、乾燥状態となり、直ちに診察室へ運ばれるとの事で感嘆するのみでした。

二階へ上りますと、手術関係の諸室と、回復室、心臓血管系の特設検査部門から成る手術部があり、あと半分は病室になっております。手術室は五室あり、各室にフロントガラスの見学室を持ち、自由に見学出来ると同時に無影燈に組込まれたインターホンで術者に質問し、又術者からの解説が聞かれる様になっているとの事で、今私共が学生であったならば……と羨しく思つた事でした。更に一個別のインターホンが組込まれ測定室に通じていてこの様に二個組込んだ無影燈は珍しいので

うです。又心臓手術の為に必要な人工肺装置用、麻酔用とは別に壁からの酸素の供給、冷温水の供給が出来る様になっており、壁のバルブ操作一つで望む温度の給水が行われるとの事。手術中の心電図や心内圧等の測定は、各手術室から測定室に七〇本づつ計三百五十本のコードが室外のコード専用の廊下を走り、測定は術者の望む時に行い、且記録を出来る様リモートコントロールによって行われています。手術室に引続き、三台の人工心臓の為の準備室、低温麻酔の為の製氷機を持つた準備室、人工弁や代用血管、代用膜の急速滅菌消毒用のハイスピードオートクレーブ等が用意されていますが、将来カラーテレビを用いる為の配管もされている由。術後四十八時間経過を観察する回復室には、十二床のベッドがあり、まだ麻酔から醒めない患者、重症の為各種装置がなされ必死に生への努力を続けている患者で満床であり唯、心から回復を祈つて室を出ました。次に特殊検査部門として、心臓カテーテル法と血管心臓造影法を中心とした検査室三室と、その他血液ガス分析室、他数室、又この両方が同時に出来る装置も備え、且レントゲンテレビがあつてビデオテープによって検査結果を再現出来る様になっています。手術室、検査室のスペースは大変広く、これは将来の機械の造設を考え、又狭い所で機械すれすれに人が通る事の無い様にとの為です。レントゲン装置としては、①東芝製特型撮影透視台と、血管心臓造影用自動注入撮影装置一式。②フィリップス社製シネバルス式心臓血管検査用レントゲンテレビ装置と、ソニー社製のビデオテープレコーダーを組合せ、検査結果を直に再現検討出来る様にし、同時に十六ミリの映画にも撮影出来る様にしてある。③シーメンス社製レントゲンテレビ一式とシエルナンデル社製二方向同時撮影式連続撮影装置の組合せ。これだけが予定されており、一部未完成でしたが、一施設でこれだけの物量を備へ持った所は世界的に見ても稀とお話でした。

こうした各室の特徴の他に、通信施設としても他には見られない最新の設備で、医師と看護婦との連絡は電磁波によるドクターコールシステム、各病棟からフロント、医局に連絡するインターホンシステム、テレフォンシステム各ナースステーションからのドクターコールの四システムから構成されています。ナースステーションは各階のほぼ中央にあり、見通しのよい場所であり、又ここは地下の中央材料室と直結して、材料集収で看護婦が飛び歩く必要も無く、丁度勤務中の看護婦さん達もきびきびと楽しそうに働いていました。病室は二階から五階迄は大人の病棟で、六階が小児病棟になっています。ベット数二百二十六床で心臓研究所として世界最大です。尚研究所の部屋の総数は大小合せて四百五十室。これだけの施設をもつても尚現在手術待機の患者が数百人あるとの事です。各病室は色彩、採光等凡ゆる面に細心の注意が払われ、特に六階の小児病棟には一隅に可愛い飾りつけの小児食堂があり、食事はここでとらせ必ず医師一人が附添つて子供達の食事の様子を見守る事によって患児の身体状況を自然に観察し、又子供達自身も喜んで食堂へ来るそうです。尚感心した事は、病院内の便所には全部内部に非常用ボタンが設置されている事です。これは勿論、心臓の発作が何時、如何なる所で起るか予測出来ない為ですが、この様な万全の注意が如何に患者の安心感を与えている事か……と感動致しました。

服部先生が懇切丁寧に御説明下さいました。難しい心臓外科専門の分野であり、唯々感嘆する許りで質問する知識も無く、勿体ない様な申し訳ない様な気が致しました。終つて椅子に坐つた時、ちらと自分の貧弱な診察室が脳裏をかすめました。何かこの立派な研究所に自分達もつながつて、誇らしさと力強さでそれも一瞬に消え去り、日進月歩の明日の医学を考えての諸種設備、オリジナルな各種器械への驚嘆と同時に、全館に互つて隅々迄行き届いた患者への思いやりに満ちた温かい病院の雰囲気を感じました。

脳細胞をフル運転して些か疲れた私共は、午後、オリンピック競技場、新宿御苑、浜離宮を見学、充実した一日を感謝して帰りました。

日本女医学会愛知県支部総会記録

山本美代子
加藤弓子

日時—昭和四〇年十一月二十一日
会場—愛知県医師会館

出席者

日本女医学会副会長 吉岡ふさ先生

参議院議員 山本 杉先生

愛知県医師会理事 山本 先生

出席会員 五九名

委任状 九五通

総会次第

一、開会の辞

二、支部長挨拶

三、庶務並会計報告

四、役員選挙 (新支部長挨拶)

五、来賓挨拶

六、講演、点数改正について

七、閉会の辞

支部長挨拶 (森川みどり)

会員数が七〇余名より二百余名に増

した。女医学会事業として、婦人子供

の健康相談を行い、理事会は毎月一回

以上行われ、会の運営にあたっている。

その他各科別に学術、各ブロック別

活動、レクリエーション、医師会へ

の協力など、会員が各分野で活動して

いる。

役員選挙

選挙に先立ち議長選出(推薦)される。

選挙管理委員選出(推薦)される。

候補者名簿を印刷配布(連記制)



(於愛知県医師会館 (中央吉岡ふさ副会長))

医療制度根本的改正、再診科、国会に
於ける医療方面の諸問題について簡単
に述べらる。

吉岡日本女医学会副会長

選挙、次期総会受入れに対するお礼

の言葉あり、会員の質疑に対して応

答。

新支部長挨拶 (森川みどり)

次期総会受入れの責任上再度この任

に当る。会員の協力を要望。

昭和四十年年度理事會議事収録

▼四月常任理事会並理事会

1 理事欠員に関する件

役員欠員の場合は選出母体に一任し

理事会の決議により承認を要する事

2 評議員会、総会の件

宮城県支部で開催の評議員会、総会

に関する件

3 国際女医学会の件

一九六六年度国際女医学会総会につい

て

4 昭和三十九年度会計(予算決算)の件

5 前進座一日総見の件(目的:収益を

得るため)

▼五月 第十回日本女医学会総会開催

日時 昭和四十年五月十五日

場所 宮城県仙台市日立ファミリース

ンター

議題○昭和三十九年度決算報告

昭和四十年年度予算審議

○次期総会に関する件他

御逝去

定方亀代副会長はながらく群馬県

榛名荘病院内老人ホームで御静養

中でしたが、一月二十六日御逝去

遊ばされました。尚、お葬儀は一

月二十八日聖路加病院内礼拝堂で

厳粛に行われました。心から御冥

福をお祈りいたします。

▼六月常任理事会並理事会

1 第十回総会の反省

・会員慶弔費の件

・次期総会開催地の件

三年に一回は東京で他二回は地方

にて総会を行うことに決定

次回候補地(愛知県支部に)交渉

2 山本杉理事(参議院議員立候補)後

援会への見舞金の件

3 理事欠員に関する件

▼七月常任理事会

1 名譽会員の件

2 次期総会開催地の件

3 慶弔費の件

4 国際女医学会の件 八月休会

▼九月理事会(七月の議事と同じ)

▼十月常任理事会

1 会則一部改正(名譽会員、慶弔費に

関する項の改正)

2 次期総会は愛知、岐阜、三重三県共

催決定

3 国際女医学会の件(参加者決定)

▼十一月理事会

1 愛知県支部総会議事報告

2 国際女医学会の件(団長に三神美和常

任理事・旅行業者の決定)

▼十二月常任理事会並理事会

1 総会開催地よりの連絡事項に關して

2 名譽会員に定方副会長他三名を推

薦、総会に懸案

3 副会長補充の件

4 会費納入の件(支部還元金の件)

5 新会員獲得の件

◆会費を納めてさい

前会誌二十四号に各支部別の

会費納入状況をまとめ記載いた

しました通り、四十年十月十

五日調べでは会員の約三分の

一しか納入されておりません。

三月は決算期になりますので

お忘れなく御送金下さるよう願

います。

尚十ヶ年前納(一万円)に御

協力願います。

会計理事

佐藤 イクヨ

中西 清子

木原 シツ子

真鍋 昌子

山口 三重

藤本 佐賀枝

林 胤子 柳瀬 路子

山本 杉 卜部美津子

安田 信子 峯 信

青木 良枝 佐野アヤ子

豊田 道子 (前納者合計二百二名)

1. 医師数、業務の業種類別 (実数・百分率)

	昭和38年		昭和39年			増減率
	実数	百分率	女医数	実数	百分率	
総数	106,512	100.0	10,043	108,102	100.0	1.5%
医療施設の従事者	99,471	93.4	8,882	101,021	93.4	1.6
病院の開設者	2,339	2.2	51	2,613	2.4	11.7
診療所の開設者	50,716	47.6	4,552	51,664	47.8	1.9
病院(医育機関附属のものを除く)の勤務者	27,030	25.4	1,708	27,460	25.4	1.6
診療所の勤務者	9,739	9.1	2,006	9,341	8.6	-4.1
医育機関附属の病院の勤務者	9,647	9.1	565	9,943	9.2	3.1
医療施設以外の従事者	4,328	4.1	579	4,257	3.9	-1.6
臨床以外の医学的教育機関又は研究機関の勤務者	2,000	1.9	78	2,006	1.9	0.3
衛生行政又は保健衛生業務の従事者	2,328	2.2	501	2,251	2.1	-3.3
その他	2,713	2.5	582	2,824	2.6	4.1
その他の職業に従事する者	803	0.8	24	811	0.8	1.0
無職の者	1,910	1.8	558	2,013	1.9	5.4

2. 診療に従事する医師数、診療科名別 (実数・百分率)

	昭和38年						昭和39年						
	実数			百分率			実数			百分率			
	総数	病院	診療所	総数	病院	診療所	総数	女医数	病院	診療所	総数	病院	診療所
総数	99,471	39,016	60,455	100.0	100.0	100.0	101,021	8,882	40,016	61,005	100.0	100.0	100.0
内科	13,470	8,768	4,702	13.5	22.5	7.8	13,932	774	9,076	4,856	13.8	22.7	8.0
呼吸器科	394	378	16	0.4	1.0	0.0	336	30	322	14	0.3	0.8	0.0
消化器科(胃腸科)	140	73	67	0.1	0.2	0.1	167	6	88	79	0.2	0.2	0.1
循環器科	50	41	9	0.1	0.1	0.0	47	1	35	12	0.0	0.1	0.0
小児科	3,616	2,063	1,553	3.6	5.3	2.6	3,626	744	2,042	1,584	3.6	5.1	2.6
精神科	450	438	12	0.5	1.1	0.0	493	58	480	13	0.5	1.2	0.0
神経科	104	83	21	0.1	0.2	0.0	149	9	119	30	0.1	0.3	0.0
外科	7,408	6,607	801	7.4	16.9	1.3	7,518	47	6,750	768	7.4	16.9	1.3
整形外科	2,299	2,085	214	2.3	5.3	0.4	2,430	33	2,186	244	2.4	5.5	0.4
産婦人科(産科・婦人科)	7,513	3,780	3,733	7.6	9.7	6.2	7,784	781	3,901	3,883	7.7	9.7	6.4
眼科	4,269	1,435	2,834	4.3	3.7	4.7	4,365	1,349	1,458	2,907	4.3	3.6	4.8
耳鼻いんこう科	3,495	1,262	2,233	3.5	3.2	3.7	3,565	529	1,291	2,274	3.5	3.2	3.7
気管食道器科	4	4	—	0.0	0.0	—	2	0	2	—	0.0	0.0	—
皮膚泌尿器科	1,741	1,288	453	1.8	3.3	0.7	1,865	117	1,384	481	1.8	3.5	0.8
性病科	14	2	12	0.0	0.0	0.0	15	0	3	12	0.0	0.0	0.0
こゝろ科	129	19	110	0.1	0.0	0.2	136	13	20	116	0.1	0.0	0.2
理学診療科(放射線科)	653	629	24	0.7	1.6	0.0	671	23	637	34	0.7	1.6	0.1
麻酔科	169	169	—	0.2	0.4	—	201	18	201	—	0.2	0.5	—
全科	3,270	56	3,214	3.3	0.1	5.3	3,044	139	53	2,991	3.0	0.1	4.9
内科的診療科	25,088	5,480	19,608	25.2	14.0	32.4	25,426	2,532	5,466	19,960	25.2	13.7	32.7
外科的診療科	7,279	2,379	4,900	7.3	6.1	8.1	7,298	294	2,377	4,921	7.2	5.9	8.1
内科的・外科的診療科	17,668	1,797	15,871	17.8	4.6	26.3	17,637	1,364	1,909	15,728	17.5	4.8	25.8
不詳	248	180	68	0.2	0.5	0.1	314	21	216	98	0.3	0.5	0.2

編集後記

○昭和四十一年の新春にあたりまして
 会員諸先生の御多幸と御発展をお祈り
 いたします。本誌も復刊二十五号を迎
 えました。いつもそそくさと、おちつ
 きのない編集ばかりいたしまして皆様
 に申訳ございませんが、これも我々会
 員が余技にすることで、本職でない
 という理由をつけておわび申し上げます。
 ○本誌の発展は諸先生方のお力の外は
 ございませんから、どうぞ何でも結構
 でございますから原稿をお願い申し上げ
 ます。

○長野県戸倉町で診療をしておられた
 宮入せつ先生は旧臘十九日に交通事故
 で急逝されました。先生は医者になら
 れてからの一生を無医村の診療にささ
 げて来られたお方で先生は短歌に堪能
 であられ歌集「雪と林檎」など出版
 されています。その歌はまことに切実
 なもので全部先生の生活記録でした。
 一生を山村の病めるもののためにお
 つくしになった貴いお姿、思うだに胸
 せまる心地です。遺稿などもたくさん
 おありのことと思いますので改めて遺
 族の方々にお願ひしてみてもいい
 ます(四一、一、二〇 福田幹子)。

昭和四十一年二月十日印刷
 昭和四十一年二月十五日発行
 編集人 福田 幹子
 発行人 日本女医学会
 発行所 東京都新宿区市ケ谷河田町19
 印刷所 東京都港区麻布田島町63
 福田印刷株式会社

題字 吉岡 弥生